

日英教育学会 JAPAN-UK EDUCATION FORUM NEWSLETTER No.57 2021/6/23	日英教育学会事務局 〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13 東京成徳大学子ども学部 青木研究室内 TEL 03-5948-4464 jimukyoku@juef.org
--	--

日英教育学会第 30 回大会のご案内

2020 年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着かない状況の中で、大会の時期を迎えることとなりました。昨年大会校を早稲田大学でお引き受けする際には、もう少し感染状況が落ち着き、学内の教室の貸与条件なども緩和されるものと想定しておりましたが、今後東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う人流の拡大を通じて、残念ながら東京の感染状況は依然として落ち着かないことが想定されます。

運営委員会でご検討頂いた結果、昨年度に引き続き原則的にオンラインでの開催とすることにいたしました。進行にあたりご迷惑をおかけするかもしれませんが、積極的なご参加・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、二日目のスケジュール、あるいはシンポジウム「会場」や自由研究発表「会場」の zoom ID やパスワードなどにつきましては、学会事務局よりメール・ウェブサイトを通じて情報提供されますので、随時ご確認いただきますようお願いいたします。

実行委員長： 沖 清豪（早稲田大学）

1. 日程 2021 年 8 月 30 日（月）・31 日（火）

2. 会場 オンライン開催（詳細は別途学会事務局よりご連絡いたします）

3. スケジュール

第1日： 8月30日（月）

11:00～12:30	運営委員会	
13:00～13:45	シンポジウム打ち合わせ	
14:00～17:00	公開シンポジウム	一般の方も参加できます
17:00～18:00	参加者の交流	参加者間での交流の場を設定します

第2日： 8月31日（火）

午前	自由研究発表	会員のみが参加できます
昼頃	総会	会員のみが参加できます

第1日と第2日のzoom ミーティングのID並びにパスワードは異なりますのでご注意ください。

4. 参加費

会員：無料（公開シンポジウム、自由研究発表、総会）

一般の方： 公開シンポジウムの参加のみ可、参加費は無料

5. シンポジウム

イギリス版「高大接続改革」を検証する：格差・公正・移行問題に注目して

テーマ 地域間格差の解消と公平・公正な選抜が求められる中で、イギリスにおける中等教育から高等・継続教育への移行問題の現状を確認する

趣旨 イギリスでは学術資格の改革（GCSE や A-level 等の 2010 年代改革状況）や選抜制度の改革を通じて、高等教育進学率の向上と格差是正のための取組が、政策レベルでも個別大学レベルでも進められてきました。にもかかわらず、依然として地域間等での進学率格差は改善されているとはいいがたいようです。

一方で職業資格改革(T-level の導入等)も進められており、他の欧州諸国と同様に、職業資格と学術資格を同じ枠組みで捉え直す資格枠組の改革も継続的に実施されています。職業資格を就職時だけでなく、高等教育機関進学における資格としても活用する事例も見られる中で、中等教育から高等教育への移行問題をどう捉えたらよいのでしょうか。

あるいは、日本でも大学入学者選抜や大学教育での民間検定試験の活用拡大について検討され

てきたものの、地域間格差や経済面での格差を改善する取組みは十分とは言えない状況です。今後、日本で改めて社会・経済的な格差是正に取り組むにあたり、イギリスの状況は、その課題や限界を含めて先行事例として注目されるものでしょう。

今回のシンポジウムでは、日本における入試改革や若者の格差問題を考える上での合わせ鏡として、イギリスの現状と課題、そしてその克服方法やその限界について確認することを目指します。

登壇者（それぞれの報告演題は8月上旬に最終的に確定いたします）

14:00-14:25 沖 清豪（早稲田大学・司会）

趣旨説明＋シュワルツ報告後の大学入学者選抜をめぐる議論

14:25-14:50 山村 滋（大学入試センター）

高等教育進学データから見た格差問題と社会的公正

14:50-15:15 花井 渉（大学入試センター）

資格試験制度改革から見た社会的公正

15:15-15:40 佐野 正彦（大阪電気通信大学）

継続教育と職業への移行に焦点を当てて

15:40-15:50 休憩

15:50-17:00 全体討議

なお、全体討議終了後も、出席者間での意見交換、交流の場として1時間程度 zoom ミーティングを公開する予定です。懇親会の代替としてご利用いただけますと幸いです。

また、今回のシンポジウムは学会会員以外の一般の方の参加も想定し、公開シンポジウムとして実施することにいたします。

6. 連絡先

沖 清豪（早稲田大学）

okikiyo@waseda.jp

以上

（沖清豪）

公開研究会報告(2021年3月15日)

2021年3月15日15:30～15:00に、「英国の高等教育とスチューデントフィクション—教育学と都市地理学の接点を探る—」というテーマの公開研究会をZoomで実施しました。講師は非会員の中澤高志氏（明治大学、経済地理学・都市社会地理学専攻）をお願いし、司会を吉原美那子（高崎経済大学）、コーディネーターを片山勝茂（東京大学）が務めました。参加者は20名で、その内、事前登録をした一般の方が4名でした。

当日は趣旨説明と講師紹介の後、パワーポイントの資料をもとに40分ほどご講演をいただき、休憩をはさんで30分ほど質疑応答を行った上で、最後に会長の広瀬裕子（専修大学）より閉会挨拶がありました。講演では、スチューデントフィクションを「学生人口の増大と特定地区への集中によってもたらされる都市の社会的・経済的・文化的・空間的変容」と定義した上で、多数の図表や写真を用いた議論がなされました。まとめとして「イギリスにおけるスチューデントフィクションは高等教育の門戸開放政策と新自由主義的政策の交錯によって生じた都市空間の変容である」「スチューデントフィクションとジェントリフィケーションは短絡的に結びつけるべきではない」「『学生の空間』が学生によっていかに生きられているかと問うべき」という3点が挙げられました。

なお、当日の研究会の記録（録画とパワーポイントの資料、および講師の関連論文等）は本学会のホームページ上で会員限定で公開されています。閲覧に必要なパスワードはすでに事務局からメールでお送りしておりますが、必要な方は事務局にお問い合わせください。

今回、参加費を無料としてホームページで広報し、会員からの個別の呼びかけもあり、非会員による事前登録の申込みが5件ありました。そして、後日その内の1名の方に本学会にご入会いただくことができました。これも公開研究会の成果と言えるでしょう。

（片山勝茂）

連載 第 8 回 英国教育研究アーカイブス

—木村浩先生蔵書のリスト化計画 7—

今回も、故木村浩先生からお預かりした段ボールの 7 箱目をご紹介します。木村先生からお預かりした箱は全部で 8 つですので、次回で木村先生蔵書のリスト化作業は終了となります。

以下にご紹介する資料にご興味がおありの場合は、いつでも学会事務局 (jimukyoku@juef.org) までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

①大学カレンダー

Durham University

-Calendar 1957-58 vol.1

King's College London

-Calendar 1972-1973

University of Edinburgh

-Programme of Admission 1966-67

St. Andrews University

-Calendar 1962-63

The University of Maryland Baltimore County

-Bulletin *A Guide to the Undergraduate Program*,
September 1970.

The University of Salford

-Calendar 1972-73

-Regulations 1972-73

The University of Sussex

-Handbook 1966-67

-Prospectus 1963-64, 65-66

-Guide for Applicants 1973, 1974

• **U of Sussex, School of Education**

-Handbook of Syllabuses and Examination Regulations for Courses Beginning 1972-73

• **U of Sussex, Graduate School in Arts and Social Studies**

-Prospectus 1973-74

University of Durham

-Regulations for Matriculation 1965-66

-Regulations for B.A. in General Studies, B.A. with Honours and B.A. in Social Studies 1965-66

-Regulations for Examinations in Science 1965-66

• **U of Durham, King's College Newcastle upon Tyne**

-Handbook Academic Year 1962-63

• **U of Durham, Department of Education**

-Prospectus Session 1965-66

University of Oxford

-Admission to Oxford (Women) Procedure for those wishing to read for an Honour School for admission in October 1974.

-Examination Statutes 1962

-Oxford Catalogue 1966 (Reissue of the 1965 text with a new index and a supplement of books published during 1965).

-Prospectus 1965

-Report of the Committee on Relations with Junior Members, Supplement No.7 to the University Gazette, vol. xcix (May 1969)

-University of Oxford Committee for Advanced Studies, *Facilities for Advanced Study and Research*, Oxford at the Clarendon Press, 1965

-University of Oxford Delegacy for Extra-Mural Studies, *Rewley House Papers*, vol. IV Number I, 1962-63.

• **U of Oxford, Regent's Park College**

-Report for the Session Ending June 1972

• **U of Oxford, St. Hugh's College**

-Prospectus 1973-74

University of Reading

-Calendar 1962-63

-Calendar 1972-73

-Proceedings of the University 1971-72, Reports Presented to the University Court

University of Southampton

-Calendar 1957-58

University of St. Andrews

-Prospectus 1973-74

University of Strathclyde (Formerly, the Royal College of Science and Technology, Glasgow)

-Annual Report 1971-72

-Calendar 1971-72

-Degree of B.A., School Arts and Social Studies/School of Business and Administration, Regulations for the B.A. Degree, Examples of Possible Curricula 1965-66

-Degree of B.Sc., Transfer of Part-Time Students to Courses Leading to the Degree of B.Sc.

-General Prospectus 1965-66

-Librarianship, Courses for the B.A. Degree Postgraduate Diploma Course A.L.A. Course 1965-66

-Prospectus of Special and Advanced Classes, Session 1964-65

-Prospectus 1973-74

-Pure and Applied Science (including Engineering Architecture) 1964-65

-Report on Research 1964-65

-Scottish Hotel School, Hotel Management, Courses for the B.A. Degree 1965-66

-Degree of Bachelor of Arts, Arts and Social Studies, Business and Administration 1964-65

-Students Handbook September 1972

②一般書籍

Education Committees Year Book 1956-57, The Official Organ of the Association of Education Committees, 1956

Elizabeth H. Bennett, Catherine Beebe, Julia W. Bingham, Mabel B. Dowse, and Margaret Frisky, *Through the Gate*, Silver Burdett Company, 1945. ("Learning to Read" A Basic Reading Program by Nila Banton Smith, Professor of Education University of Southern California)

Harriot Buxton Barbour and Warren S. Freeman, *A Story of Music*, C.C. Birchard and Company: Boston, 1937.

(宮島健次)

運営委員会報告

2021年5月16日、2021年度第一回運営委員会をオンラインで開催しました。概要は次の通りです。

- (1) 会員数について
- (2) 2020年度決算(案)について
- (3) 2021年度大会について
- (4) 紀要について
- (5) 2021年度予算(案)について
- (6) 次年度大会校について

2022年度は福岡大学での開催を計画しています。正式に決定次第お知らせいたします。

- (7) 公開研究会について

公開研究会は1年に2回(かそれ以上)開催することの確認が行われました。次回の研究会については現在調整中ですが、決定次第お知らせいたします。

- (8) ニュースレターNo.57について
- (9) その他

(青木研作)

紀要編集委員会報告

紀要第25号では昨年の大会テーマ【EU 離脱国民投票後の『福祉国家』英国とその教育を展望する】においてご登壇いただきましたシンポジストお二人(近藤康史氏・名古屋大学・政治学の立場から、山本隆氏・関西学院大学・社会福祉学の立場から)による報告とまとめの論考のほか、自由投稿論文、書評、図書紹介等を掲載予定です。8月下旬には発行できるように現在作業を進めております。

紀要の原稿を募集しています

紀要第26号(2022年8月発行予定)の自由投稿論文を募集します。編集委員会では次号の総頁数のおよその見当をつけたく、投稿の意思のある方は2022年1月末日までに、氏名・所属・論文タイトル(仮のものでかまいません)をメールでお知らせください。なお、投稿の意思表示がなくてもご投稿いただけます。論文の投稿の締め切りは2022年3月末日です。

投稿意思表示および投稿論文の提出先は「日英教育学会紀要編集委員会」kiyou@juief.orgです。投稿規程は学会ホームページより **publications** の中から、本学会紀要『日英教育研究フォーラム』第24号「日英教育学会の歩み・他」にてご確認ください。

(高妻紳二郎)

大会の自由研究発表を募集しています！

現在、大会 2 日目 (8/31) の自由研究発表の発表者を募集しています。ご希望の方はご氏名、ご所属、ご発表題目をそえて 6 月 27 日 (日) までに学会事務局 (jimukyoku@juef.org) までご連絡ください。

学会会費をお支払いください

2021 年度会費をお支払いください。過年度会費未納の方につきましては、併せてお支払いをお願いします。また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。くれぐれもご注意ください。

会員登録データの確認のお願い

「会員登録データ確認用紙」を同封しております。所属等の情報が古くなっている方もおられると思いますので確認をお願いいたします。また、本学会の研究活動をより充実したものにするために、会員の皆様の専門領域や研究テーマをご登録いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

2017 年 5 月に本学会が編集し刊行した『英国の教育』ですが、先日、出版していただいた東信堂の下田社長から最新の販売状況をお知らせいただきました。1,000 部刊行し、現在の在庫は 85 冊とのことで、取次見本やマスコミ紙・学会書評献本等を除いて、4 年間で 800 部程度売れたのではないかとのことでした。あとわずかで完売という状況ですので、会員の皆様には引き続き宣伝等ご協力いただけますと幸いです。

この『英国の教育』の企画が出たのは 2014 年頃で、当時代表だった上田学先生が学会創設 25 周年を見据えて、学会として発展的な新しい事業に取り組むという意図で発案されたものと記憶しています。この本は、当時の学会会員の約 3 分の 1 の参加を得ることにより、多様な切り口から網羅的にまた専門的視座から英国の教育を描いており、これもさまざまな専門性や関心を持つ会員が集まり活動してきた本学会の成果だと考えます。

さて、今年度本学会は創設 30 周年を迎えました。コロナ禍でもあり、大々的な記念事業は計画しておりませんが、引き続き英国教育の研究を多角的に発展させていくための活動を推進していきたいと思っております。本ニューズレターでは今年度の大会のを中心にお知らせしましたが、沖会員のご尽力で大変興味深いシンポジウムが計画されております。コロナの影響から、今年度もオンラインでの実施ということになりましたが、是非ご参加いただき活発に議論していただければ幸いです。会員の皆様の益々のご協力をお願いいたします。

(青木研作)

日英教育学会 (Japan-UK Education Forum) 代表 広瀬 裕子

◆事務局 〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13

東京成徳大学子ども学部・青木研究室内 TEL 03-5948-4464

◆問い合わせ先 jimukyoku@juef.org

◆郵便振替 00170 2 780381 日英教育学会

◆三井住友銀行 武蔵関支店 総合 6651815 日英教育研究フォーラム事務局長 青木研作